福島県中学校教育研究会

特別活動部報

発　行　令和５年３月３日
発行所　福島県中学校教育研究会
　　特別活動部会
発行人　渡　部　正　晴

あ　い　さ　つ



福島県中学校教育研究会
特別活動専門部長　渡　部　正　晴

令和４年度は，ここ数年開催できなかった県大会を開催することができました。１０月６日(木)，統合された，木のぬくもりいっぱいの新しい校舎となった猪苗代町立猪苗代中学校を会場として，現地での参加とリモートによる参加のハイブリット形式での開催となりました。事前に猪苗代中学校の五十嵐　淳先生の授業を動画で視聴し，当日の研修会では五十嵐先生の自評，提案授業や各支部での取り組みについての意見交換を行い，南会津教育事務所指導主事・万﨑公彦先生からご助言をいただきました。新しい形式の開催で不安もありましたが，北会津地区の先生方が準備万端に整えておいてくださったこともあり，とても充実した研修会とすることができました。改めて会員の皆様に御礼を申し上げます。

さて，今年度から新しい研究主題「様々な集団活動に自主的・協働的に取り組み，集団や個人の課題を解決し，よりよい社会を創ろうとする生徒を育む指導はどうすればよいか。」がスタートしました。１年目の副主題は「互いのよさを尊重し，協働できる集団活動の工夫」と設定し，「人間関係形成」，「社会参画」，「自己実現」の三つの視点を整理して，実践を行ってきたところです。県大会の報告にもありましたように，各支部・各学校の実態に応じた創意工夫ある取組により，研究を進め，子どもたちに夢と希望を与えることができる実践が多かったと思っております。

令和５年度は，副主題の「集団活動への参画を通して，課題を解決する力の育成」をテーマとして研究実践を行うこととなります。生徒の思いや願いが反映される集団活動を行うためには，その「集団」内で一人一人が大切にされることが大切です。大切にされることで，生徒は安心して自分の思いや願いを出すことができます。集団の合意形成のためには，一人一人の思いを踏まえ，全員の意思が反映されることが必要です。一人一人が自覚をもって決定に参加することによって，初めて集団活動に「自分事」として関わることができると考えています。そのような集団作りにのために，やはりリーダー育成は欠かせません。リーダー育成は時間がかかります。今年の成果を十二分に生かし，リーダー育成も大切にして実践研究を進めていただきたいと思います。

次年度の県大会はいわき大会となり，いわき市立錦中学校を会場に特別活動部会が開催されます。各支部の会員の皆様の意欲的な研究実践により，今年度の成果と課題を踏まえ，充実した研究協議会になりますことをご期待申し上げます。

最後になりますが，本会報の発行をもって令和４年度の県中教研特別活動部会の全事業を終えることができました。役員並びに会員の皆様の御協力に心より感謝申し上げ，あいさつといたします。

令和５年度の研究推進について

１　研究主題・副主題

『様々な集団活動に自主的・協働的に取り組み，集団や個人の課題を解決し，よりよい社会を目指す生徒を育む指導はどうすればよいか』

令和５年度副主題
「集団活動への参画を通して，課題を解決する力の育成」（２年次）

２　昨年までの研究から

初年度は各支部において研究が進められ，１０月に開催された中教研の会津大会において発表が行われた。提供授業では,「よりよい学級をつくろう」を活動テーマに話し合い活動が提供された。また，伊達・郡山・南会津支部からの実践発表が行われ，特に『学級力』についての議論がなされた。また，現在の子どもたちの状況を踏まえ，強いリーダーシップをとることが難しくなってきているため，教師そのものも新しいリーダー像を模索し，追究すべきであることが指摘された。生徒の話し合い活動についても慣れていない部分が多くみられるため，対話による合意形成を図る手立てについての指導もさらに工夫が必要であることが確認された。『学級力』については，項目が数値化され，グラフ化されるために学級の状況を把握しやすいが，『学級力』の数値を上げることを目的としてしまうと，子どもが学級をどのように見ているのか，その学級の見方が埋没してしまう可能性があることも注意する必要があろう。

３　研究副主題について

令和４年度～６年度を見通して，１年次で親密な関係の「集団」を創り上げることに取り組む。２年次で集団の抱えている諸課題を見つけ出し，解決していく過程を通して，その「集団活動」を創り上げることに取り組む。３年次では，今まで学習してきたことを基に,「現状分析→方針提起→集団決定→実践→総括」というサイクルを動かすことで,「よりよい社会を目指す生徒の育成」に取り組むことになる。

（１）リーダー指導について

２年次の研究は，１年次を踏まえた集団づくりの上に,「参画」と「課題を解決」という文言を加えた。ただし，１年次と２年次は交互に絡み合いながら発展していくものであり，リーダー指導については２年次も継続して取り組み，さらに良いリーダーを育てていきたい。しかし，集団内に強力なリーダーシップを持ち，集団をリードしていくリーダーを昨今ほとんど見ることができない状況の中でのリーダー指導は，リーダーを個人として捉えるのではなく，何人かのリーダーの集合である「リーダー集団」として，指導していくことも指導者側は考えておく必要がある。一人のリーダーを中心に集団をまとめるのではなく，体育的な行事や文化的な行事においてそれぞれの適性に応じたリーダーを選出していくことも考えなければならない。また，リーダーのみを指導するだけでなく，リーダーを選んだ側の指導も同時に行わなければならない。リーダーは,フォロワーによって支えられることで初めてリーダーシップを発揮できる。リーダーの間違った指導には従わないが，正しい指導には従うというフォロワーがいて，リーダーのリーダーシップが発揮される。

註　リーダー指導のあり方については，前年度の部報および「令和4年度の研究推進について」を参照していただきたい。フォロワーの指導については，来年度の主題研修会で提示する「令和5年度の研究推進について」の中で具体例を含めて，記載する予定である。

（２）「集団活動への参画」について

今年度の副主題は,「集団活動への参画」と集団の「課題を解決する力」をメインとして研究を進める。そのためには「集団活動」をどのように作っていくかを考える必要がある。

註　「集団」については，昨年度「特別活動部報」や「令和4年度の研究推進について」を参照していただきたい。

生徒の思いや願いが反映される集団活動を行うためには,「集団」内の一人一人が大切にされることが必要である。大切にされているという実感があるから，生徒は安心して自分の思いや願いを表面に出すことができる。そのために教師と生徒が協力しながら,自分自身の考えを安心して表現できる集団を目指す必要がある。また,活動の実施を決定（合意形成）する際，全員が意思表示したうえで活動を決定することが重要である。一人一人が自覚をもって決定に参加していくことで集団活動に「自分事」として関わることができると考える。

では,「集団活動」をどのようにつくり出す

のか。多くの場合，指導に当たるのは学級担任である。学級には社交的な子どももいれば孤立しがちな子もいる。それらの子どもたちにとって，お互いが交わる機会と「ここにいてもよいという居場所」を保障するために，学級内に班を置いてはどうだろうか。

註　班については，単なる「生活班」として，給食や清掃時の活動のみを行う場合が多い。しかし，「居場所」や「交わり」の機能を班に持たせるとするならば，教師は意図的に班を編成する必要がある。

この班を通して，班での話し合いや学習援助，当番活動や遊びなどの活動を作り出し，対話したり協力したりすることが大切である。

話し合いをする場合も班の中での話し合いが有効である。いきなり全体の前で話し合うことは難しいことが多い。実際，いきなり全体の前で話し合いを行うと意見が出されないということが多くある。そのような場合，小集団での話し合いのほうが，全体での意見表明より，より意見表明がしやすいだけでなく，一人ひとりに意見表明をする時間が十分に保証されることになる。これを通して学級の様々な決定においてすべてのメンバーの意見が十分に反映される条件がつくられることになる。

註　学級内での話し合いの方法や集団での決定については「令和5年度の研究推進について」で詳述する予定である。

（３）「課題を解決する力」について

学級などで集団を組織し，活動が決定され，実践された集団活動を総括することで，集団における諸矛盾（集団内の独自の課題）が顕在化してくる。集団内の矛盾を顕在化させなければ，それを解決しようとする意思は生まれてこない。諸矛盾を解決する経験を積むことで，解決するための力が身に付いてくる。ただし，これらの諸矛盾が顕在化した際に，どのような矛盾を生徒に任せることが最善なのかどうかの判断は，指導者側が行わなければならないのは言うまでもない。

１年次と２年次の研究は，相互に関連した内容であり，どちらかだけを研究するのではなく指導の重点をどちらかに置きながら，実践を進めることがよいであろう。

註　具体的な実践の事例についても「令和５年度の研究推進について」において，詳述する予定である。

４　令和５年度の研究の内容と方法

（１）研究内容

研究にあたっては，次のような実践が考えられる。

①　生徒一人一人が集団の一員として行動し，集団の一人一人の良さを実感させる活動

②　集団活動を通して，リーダー候補をリーダーとなるように育てていく指導者の働きかけ

③　集団と指導者の対話を重視し，リーダー指導と話し合い活動に重点をおいた活動

④　教師だけでなく生徒と共に所属する集団の現状分析を行い，その中から，集団の課題を発見し，課題解決を目的とした集団活動を作り上げ，実践を総括していく活動

その他にも，よりよい集団活動を行うための様々な活動が考えられる。

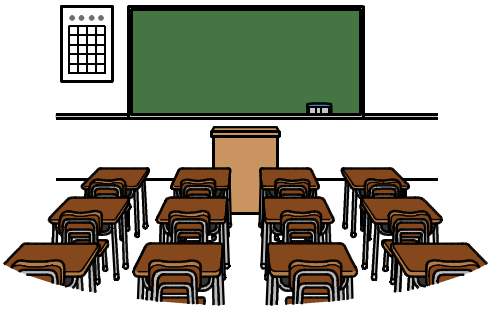
（２）研究方法

社会や世界といった大きな集団だけでなく，学校や学級などの小さな集団にも目を向け，集団のまとまりや集団の持つ行動する力を高める視点をもって指導にあたるように心がけたい。

①　各学校や学級の集団の実態に基づき研究内容の明確化を図り，集団を高めるための実践研究を行う。

②　主題研修会などを通して，研究主題や副主題についての共通理解を踏まえ学校間や学校内での情報交換や課題の共有などを行い，研究を深める。

③　様々な人間関係形成のスキルを活用し，よりよい人間関係を構築するためのコミュニケーション能力の向上に努める。



令和５年度
いわき大会　会場校紹介

「未来の自分のために」をスローガンにした学校づくり

いわき市立錦中学校



本校は，奥州三関の一つに数えられる勿来の関にほど近い，いわき市の南部，吹く風に潮の香りを感じることのできる太平洋沿岸部に位置しています。昭和１９年，クレラップで有名な呉羽化学の創立，拡大に伴う形で，昭和２２年に創立された錦中学校は，まもなく８０周年を迎えようとしている歴史ある学校です。

本校の生徒会の取り組みの一つに，生徒会本部を中心とした活発な委員会活動が挙げられます。「未来の自分のために」をスローガンに掲げ，生徒が主体的に活動できる体制づくりに，教職員も一丸となって取り組んでいます。

生徒会本部が実践していることに，専門委員長会議があります。そこでは，リーダー育成の一環として，各委員会での具体的な提案や改善策などを話し合い，自ら考え，計画を立てて実践しています。また，学級委員長会議を開催し，学級力向上に向けた取り組みを行ったり，縦割り班で各学級での反省点などを話し合ったりしています。リーダーとして相互に高め合い，よりよい学校生活を目指して，自覚をもって活動しています。

生徒主体の活動にするため，時にはうまくいかないこともあります。教師は，「生徒を信じて待つ」ことを大切にし，自主的な生徒の活動をサポートするように心掛けています。

学級活動の時間では，定期的にグループワーク構成的グループエンカウンターなどを取り入れ，集団活動の場の設定や自己肯定感・自己有用感の醸成に努めてきました。

研究の成果を発表できることに感謝するとともに，発表当日は参観される先生方からたくさんの御助言をいただけたら幸甚に存じます。

〈令和５年度以降発表支部割当予定表〉

年	令和５年	令和６年	令和７年
発	安　達	石　川	東西しらかわ
表	岩　瀬	田　村	北会津
支	相　双	耶　麻	福　島
部	いわき	両　沼	

〈令和５年度予定〉

５月 11 日	県専門部総会（主題研修）　福島市
７月下旬	各支部研究協議会（夏季）　各支部
10 月５日	県研究協議会いわき大会　　錦中
10 ～ 11 月	各支部研究協議会（秋季）　各支部
１月下旬	支部長会議　　郡山市
３月上旬	部報発行

〈令和４年度組織〉

役　職	氏　名	地　区	所属校
部　長	渡部　正晴	（福島）	吾妻中
副部長	齋藤　　直	県　北	東和中
	星野　亜希	県中・南	大信中
	横山　泰久	会　津	猪苗代中
	新井　達也	浜	磐崎中
総　務 研究委員長	鈴木　　直	（福島）	福島三中
会　計	鹿目　秀樹	（福島）	清水中

〈各支部特別活動専門部長〉

支　部	部長名	所属校	会員数
福　島	渡部　正晴	吾妻中	１４
伊　達	内谷　忠広	梁川中	7
安　達	齋藤　　直	東和中	7
郡　山	菊池　博基	小原田中	１８
岩　瀬	濱津　　太	天栄中	２７
石　川	赤間　　忠	玉川中	１６
田　村	新田　勇雄	三春中	５５
東西しらかわ	星野　亜希	大信中	２０
北会津	横山　泰久	猪苗代中	１３
耶　麻	田代　　茂	塩川中	１１
両　沼	佐藤　隆彰	昭和中	1
南会津	鈴木　　健	荒海中	２６
相　馬	高橋　知宏	鹿島中	４３
双　葉	猪狩　　孝	川内小中学園	４１
いわき	新井　達也	磐崎中	３６
計			３３５

※　会員数は所属会員数